

### 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0972600308		
法人名	医療法人 北斗会		
事業所名	グループホーム高根沢		
所在地	栃木県塩谷郡高根沢町石末1005番地8		
自己評価作成日	平成24年10月 15日	評価結果市町村受理日	平成25年2月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

おひとりおひとりのペースを尊重した「自分らしい生活」・家庭的な雰囲気作りを努め「真心ある介護」を理念に掲げ職員全員が実践に取り組んでいます。毎月の行事の他、月に一回は、ご利用者に食べたいものを聞き提供し、また、「～に行きたい」と言う言葉を、一対一で対応できる体制作りをしています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.t-kjcenter.jp/kaigosip/Top.do">http://www.t-kjcenter.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人 栃木県社会福祉士会		
所在地	宇都宮市若草1-10-6 とちぎ福祉プラザ3階 (とちぎソーシャルケアサービス共同事務所内)		
訪問調査日	平成24年11月22日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念に掲げてある、利用者一人ひとりに合った「自分らしい生活」を心がけている。利用者の在宅での生活パターンを崩さずに団体生活が行えるように、職員が「真心ある介護」を行っている。事業所は木材を多く取り入れ建物で、天窓からの日差しがあり、建物全体が明るく開放的である。また地域のボランティアから風景の写真的な写真の寄付があり、その多くの写真を廊下に飾ってあるため、家庭的な雰囲気が出ている。その土地で取れたものを食材にして食事を提供している。また、味付けも家庭的な味なため利用者にも好評である。月に一回は利用者の希望を取って、お寿司を食べに外食をしたり、事業所内で手作り餃子を行ったりして食事を楽しんでいる。年二回、併設施設と合同で防災訓練を実施している。また、夜間想定での防災訓練では、職員の連絡網を活用して避難の協力体制が行われている。医療の対応は、基本的に家族が対応しているが緊急時には職員が対応している。重度化や終末期の対応は、事業所の出来ることを本人、家族と十分に話し合いながら支援に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、スタッフ全員で話し合いのもと決定し、壁に掲げている。月に一度朝の申し送り時に復唱し、また、年初めにはスタッフ全員に理念を配布することで共有・再確認ができています。	利用者の今まで生活してきたスタイルを大切に、その人に合わせた「真心ある介護」を実施している。また職員全員が定期的に理念を確認し、日々のケアに役立てている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内のスーパーや、たんたんプラザに食材の買い物に行ったり、町民広場や歴史館へ散歩に行くなど地域住民と交流が図れるように取り組んでいる。	たんたんプラザ(野菜直売所)に食材の買い物(月、水、金)に出かけたり、近くにある町民広場、グラウンド、歴史館に散歩に出かけたり、地域の祭りに参加している。また地域のボランティアを受け入れてレクリエーション活動を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	問い合わせ・見学等は随時受け付け、電話での相談にもスタッフ全員が対応できるようにしている。また、地域の高校生に介護の仕事・認知症の方への理解をして頂けるよう実習を受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	グループホームのご利用者数や活動内容に加えボランティアの受け入れや消防訓練など実際に行っている活動を報告し、情報・ご意見を頂き活動内容に取り組んでいる。	運営推進会議の前に蕎麦打ちの会を行ったり、レクリエーションを行ったり参加者増加の工夫が見られる。また会議では市役所との情報交換の場にもなっている。	民生委員や自治会の人、家族にも参加を呼びかけ、様々な意見を得て事業所の運営に反映することを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	高根沢町役場健康福祉課高齢対策係の担当者様に運営推進会議に参加して頂きご意見やご提案を頂いている。	2ヶ月ごとにケアマネジャーの連絡会に参加し多数のケアマネジャーの意見交換の場になっている。また、市の担当者とは日頃から電話連絡等で制度の確認を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は施錠せずご利用者が外出したいような仕草の時はスタッフから声かけをし必ず付き添い、見守りをして安全を第一に努めている。	玄関や居室の出入りは利用者が自由に来る。たとえば帰宅願望の強い方は、外へ出て散歩をしたりドライブをしたり、その人に合った対応をして精神的なケアにつながっている。事業所全体で身体拘束ゼロを心がけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	サービス向上委員会にて接遇マニュアルを作成し、言葉使いには気を配ると共にケアの中でもご利用者の尊厳が保てるように努め職員間の言葉使いにも注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度についての研修会には、積極的に参加するとともに各研修会で成年後見制度について説明があった時はカンファレンス時に他スタッフにも伝達する機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、契約書とともに重要事項説明書を説明し同意に捺印を頂き、同意書は二通作成しご家族とグループホームで一通づつ保管している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には、ご家族との話し合いを大切にしており、公的な苦情処理機関についても入居時に説明し玄関ホールにパンフレットをご用意している。	事業所の玄関に意見箱を設置しているが、家族の面会時の会話の中から、事業所への要望を伺って、運営に反映させています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回カンファレンスをし意見・提案を聞く時間を設け話し合いをしている。不定期ではあるが併設施設の事務長にも参加をして頂いている。また、スタッフ用の意見箱を事務所内に設置し、すみやかに対処している。	職員に企画書をあげてもらって、その都度検討し実施しています。職員の外部研修での学びを施設全体で共有し実践している。また、日頃から管理者は職員の意見を聞けるように心がけている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各スタッフの特性に合わせた役割分担をすることで各個人が考えチームワークを生かしながら仕事ができるようにしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	併設施設と合同で入職年数により段階的な研修会に参加している。また、グループホーム単独での勉強会も定期的に行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	二ヶ月に一回介護支援専門連絡会へサービス計画担当者が参加し情報交換・連絡を受けネットワーク作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人に実際に来所して頂き、スタッフだけで面接するのではなく、他ご利用者と共に談笑しながらご本人の声でご自身の状況を伺うようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族との面会の際は、和室を利用しお話を伺う。入居されているご利用者の姿を見ていただき「施設」ではなく「家」に近い空間である事の理解と安心感を持って頂けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者の状況によりグループホームより他のサービスが必要な時は、担当ケアマネージャや併設施設の相談員に相談し総合的な対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者の過去の経験を尊重し料理や裁縫・習わしなどを教えていただきながら共に支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	センター方式のアセスメントをご家族にお渡ししご記入いただいている。また、内科以外の受診・検査などはご家族に協力して頂き病状についても把握していただけるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	「家に帰りたい」と希望された時には、ご本人の案内でドライブに出かけ近所の方と談笑される事もある。また、ご家族と一緒に馴染みの理美容に定期的に出かけている。	馴染みの理美容に定期的に出かけ、これまでの生活スタイルを維持している。また、本人がこれまで大切にしてきた思い出を他の利用者や職員と話すことにより、精神的なケアになっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者の意見を取り入れながら座席や入浴の順番などを決めている。また、性格や相性などを考慮しご利用者が過ごしやすいよう心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所や入院をされても、ご利用者やご家族が気軽に来所・相談できるような関係作りを継続している。また、ご家族の了解を得て他施設や病院へご利用者と共に面会に行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	散歩や食事の支度・買い物などご利用者とスタッフが一對一で行動することで自己決定を受け入れている。また、ご家族からの情報及びご利用者の口調や仕草・癖など表現方法をスタッフが理解する事でゆとりを持った対応をしている。	入居前の生活歴や家族の情報の生活パターンをもとに、日々の言動や動きを細かく観察し、今何がしたいかを把握して対応している。また、その把握した情報は職員全員で共有し実践している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者が安心して暮らせるよう入居時にご利用者・ご家族から記入してもらった「私の基本情報シート」を参考にしこれまでの生活歴や習慣を生かせるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の日課活動については細かく決めず夜間帯の状態及び朝のバイタルチェック時に体調を把握する他コミュニケーションをとる中で日々の変化やご利用者の状態把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画終了前にカンファレンスで話し合う他、ご家族の面会時にご利用者・ご家族の希望・要望を聞き計画に反映させている。	本人と家族から聞き取りを行い、主に本人のしたいことを重視した計画書を作成し、半年に一回は計画の見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の変化・気づきを介護記録に記入しスタッフ間で情報の共有をする。また、基本情報シートや介護経過に記入する事で次回の介護計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	定期的な内科受診には、スタッフが付き添い日々の状態をかかりつけの医師に報告している。内科以外の病院は、ご家族と相談しながらその都度対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日常的に町内や近隣のスーパー等買い物に出かけたり、地元のボランティア(蕎麦打ち・語り)を受け入れ楽しんで頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	宇都宮東病院への定期受診や緊急時の対応はスタッフがやっている。かかりつけ医への受診にはご家族に協力を頂き状況に応じスタッフも同行している。	利用者の健康状態を把握していただくために、かかりつけ医の通院受診の基本は、家族にお願いしている。ただし、急変時は職員が対応している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホームには看護師がいない為、ご利用者に変化が見られた場合には、併設施設への申し送りをを行い、随時看護師に報告・相談・支援を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。また、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者と面会を重ね随時心身の状態の把握に努め安心して入院生活が送れるように配慮している。また、ご利用者にとって適切な時期に退院できるように医療機関と連携をはかりいつでも受け入れられる体制をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階からご利用者とご家族の要望をお聞きしグループホームでどこまで支援できるかを説明し他医療機関との連携を図りながら支援している。また、スタッフ間での勉強会を実施し知識を高めている。	重度化や終末期に向けて利用者本人と家族の希望を聞き、事前に事業所でできる範囲のことを説明し家族の協力を得ながら対応している。また、職員も終末期に向けた勉強会を実施して、今後対応できる準備を行っている。	今後のグループホームの役割として、利用者の見取りをどのように対応していくか、職員間で話し合いマニュアル等を作成する事を期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	併設施設で行われている救急処置やAEDなどの研修に参加して実践力を身につけるよう努めている。また、緊急時には、緊急連絡網を活用し医師や看護師と連携が図れるようマニュアル化している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設施設との合同防災訓練に年二回参加し、グループホーム単独での防災訓練を年二回実施している。他、緊急連絡網を試験的に行っている。また、ホーム内の防火自主点検を毎月行っている。	事業所単独の防災訓練はもちろん併設施設との合同防災訓練を年二回行っている。夜間を想定した訓練では連絡網で職員が駆けつけるような体制が行われている。ライフラインが断たれた場合に、水や非常食を用意し、カセットコンロも備えています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として接しご利用者のおっしゃることを尊重するよう徹底している。個人情報保護や接遇マナーについてスタッフ全員が研修を受け秘密保持に努めている。	事業所で法人独自のプライバシーのテストを行っている。併設施設と合同で外部講師による接遇研修が年2回あり、個人の尊厳や個人情報保護について学習している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	散歩や食事の支度・買い物などご利用者とスタッフが少人数で行うことで本人の希望が表出できる場を設け自己決定を尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の日課・スケジュールを細かく定めずご利用者の希望のケアに活かせるようご利用者が納得した上で行動出来るよう実行している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居時にお持ちいただいた洋服の他に季節に合わせて必要な衣類等がある場合はスタッフと買い物に出かけている。また、通いなれた理美容に行かれたり、希望があればSAKURA訪問美容サービスを二ヶ月に一度利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者の希望時には、盛り付け・配膳・下膳はご利用者自身に行っていたいでいる。また、食事を一緒にすることで一人一人の好み把握できる。	利用者の希望で、手作り餃子やバイキング料理、外食でハンバーガーを食べたり、自由な発想を取り入れ食事を楽しむ環境になっている。また、できるだけ地域で取れたものを食材にして、味付けも家庭的なため利用者に好評である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設施設の管理栄養士の献立により、一日の摂取量目安を1500calとし、ご利用者とスタッフが一緒に食事を摂ることで摂取状況を把握し記録を行い必要なカロリーを摂取できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、居室洗面台にて、口腔ケアを行っていただくよう声かけをし見守りを行っている。入居前に口腔ケアを行っていなかった方も自分の力量に応じた口腔ケアが出来るよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	睡眠・排泄チェック表を活用し個人の排泄や睡眠時間のパターンをスタッフ全員が把握できるようにし、ご利用者にあったトイレ誘導・声かけを行っている。	リハビリパンツ使用者が数名いるが、自分のペースで排泄を行っている。夜間、自分でトイレに行けるように廊下は明るくしている。便秘予防のため食事のときにヨーグルトや食物繊維を提供している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時に牛乳やヤクルトを摂取していただいたり個別でヨーグルトや大麦若葉を摂取されている方もいる。便秘傾向の方には、散歩や体操などもお誘いをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	一日おきには入浴できる様声かけを行っている。ご利用者のペースで入浴できるよう、午前・午後の入浴時間を設けている。	利用者の希望する時間に入浴できるよう支援している。また、一人ひとりの利用者の変化に気づけるように、同じ職員が入浴介助している。入浴の嫌いな利用者は、誘いの声掛けを工夫して行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	排泄チェック表を記入する事で一日の休息時間や活動内容の把握ができるようにしている。コミュニケーションをとりながら精神面でのフォローも出来るように心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフ全員が服薬についての目的や知識を深め内服の際には、名前を呼び必ず手渡し・内服したのを確認し、内服チェック表に記入している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者の意向・希望を取り入れ得意なことを担当して頂ける様に心がけている。また、ご利用者の趣味を生かし気分転換が出来るよう配慮している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	食材等の買い物に出かけたり、天気の良い日には、近所を散歩するなどしている。また、冠婚葬祭や墓参り等の外出の希望がある場合には、ご家族と相談をし対応できるように支援している。	年二回遠足で遠方に出かける機会があるが、日々の利用者の希望に沿って、買い物、散歩、外食などきめ細かな支援が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者の希望をご家族と相談しながら買い物や外出等でお金を使えるよう支援している。また、ご家族の希望により立て替え金で清算することもある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者それぞれ希望に合った連絡手段をとっている。ご利用者の希望で居室で宛名書きなどの代筆を行ったり、いつでも電話できるようご家族に相談しながら対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	茶色を基調とした内装により親しみやすい雰囲気作りを心がけている。廊下には季節の写真や飾っている。浴室は機能や明るさを重視しつつコンパクトな家庭にある馴染みやすい浴室になっている。	以前は無かった、ホールの天井からの日差し除けに、ブラインドが設置され温度の調整が可能になっている。利用者の家族から提供された写真や暖簾などが壁や居室に掲示され、家庭的な雰囲気を演出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室は完全個室になっておりプライバシーが保護されるようになっている。食堂のテーブル以外にもリビングのソファや和室などでくつろぐ事が出来る作りになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	約10畳の居室にご利用者が自宅で愛用していた家具等を持参して頂いている。お一人お一人の身体レベルに合わせて居室・トイレに手すりを追加する等過ごしやすい空間作りをしている。	居室の入り口の表札を利用者の見やすい位置に変えたり、居室に本人自慢の表彰状などを飾るなど、個性が感じられる空間になっている。利用者が自宅で使っていた家具も持ち込めるので、自宅での環境を出来る限り再現できる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレがわからないご利用者に対しては、ご自分の作品や表札を目線に合わせたり、ご家族と相談しながら自然に認知できるよう工夫している。		